



柔らかいピンクのミニバラ

小さな葉の先まできれい!



“手を動かす”とは、何だったのか

小学4年生の息子が「ミシンをかけたい」という。前日は「アイロンをかけたい」と、ハンカチやシャツにアイロンをかけた。どうやら、家事が息子のマイブームみたい。

さて、ミシンは足踏み式のごく普通のミシンだが、子供にとって難しいのは、足で踏んで始動させる時の力具合とスピードコントロール。この時に重要なのが、手で押さえつつ、布の進み具合を調整することだが、夢中になる子供の手はミシンの針の下へと布とともに進んでしまう。ひゃ～こわっ..アイロンもそう。上げたシャツに夢中になるうち、アイロンの縁と手が当りそうになる。

アイロンをかける手順は、布を広げ、布のシワを伸ばし、新たなシワを作らない、になるが、あっちのシワとこっちのシワをどういう順で取ればいいのか、アイロンの進路を決め、片手でアイロンを進ませつつ、片手で布を広げてゆく..あらためて考えて見れば、手を動かすとは脳を動かすことに違はなく、ミシンもアイロンもヒトならではと納得した。

『キレイ』なおしゃれ

リクルート服を別にすると、通勤にスーツを着る女性が、めっきり減った。主婦も同様で、小学校受験でもなければ、スーツを着る機会は少ない。

スーツに代わって通勤服になっているスタイルが、『東京エレガンス』と雑誌CanCamが名づけて大成功したフェミニンスタイル。上質な素材、きれいな色、すっきりしたカッティングが特徴で、都会的な女らしさがあり、きちんとした印象で、誰からも好感を待たれる服として人気化した。

この先、『東京エレガンス』の進化は、スタイリッシュ・カジュアルな方向と、より上質なクチュール調を強める方向へ分化すると見られているが、「エレガンス」や「キレイ」はファッション以外の分野でも注目されるスタイル。“シンプルで組合せが利き、すっきりとお洒落に見える”は、ファッションだけでなく、食べ物やインテリアにも言えること。3月30日にオープンした“コレド日本橋”のテナントにも、『東京エレガンス』風が数多く出店した。

コレド日本橋は、B1Fで地下鉄日本橋駅と繋がり、千葉方面から都心への通勤客に便利な立地。B1Fのテイクアウト&イートインの各テナントと高級食品スーパー“ブレッセ日本橋店”から、3Fのソニープラザの新コンセプト店“セレンディピティ”まで、ほどよくお洒落な「エレガンス」「キレイ」系の店が揃った。なかに“ユナイテッドアローズ”があるが、ここも有楽町の“エストネーション”より控えめなお洒落度で、誰にでも好かれる「キレイ」を保っている。



“セレンディピティ”で気になった商品。

左はペット用の皿..行儀良い又用に見える。

下はネコ模様ファブリックで作ったクッション。グレイッシュなブルーグリーンに黒糸で刺繍風にネコが並んでいる。同布でカーテンもあったけど、遊び心がありつつ大人風に見えたのはクッション。



「キレイ」には、必要なものの準備と 不必要の排除が欠かせない。

そこで、「キレイ」なファッションや生活には、子供が家事の手習いをするような、順序や手際の習得といったことが欠かせなくなる。

20代より30代の女性の方がキレイ、さらに40代はもっとキレイと、年々、キレイ技を習得してゆくの理想ですね。

セレンディピティのカフェは、
カフェテリア式

